

周波数逼迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成27年度継続評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
次世代移動通信の国際協調に向けた国際機関等との連絡調整事務	H24-H27	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代移動通信技術の標準化提案等のため、それぞれの活動が実施されており、当該分野の標準化に貢献しているものと判断できる。 ・WRC-15では5Gモバイルに向けた今後の標準化活動のアウトラインが審議されるものと思われるので、5Gに向けた検討を強化する必要がある。 ・国際標準化の動向調査、寄書入力などのこれまでの活動で、どのプロセスでのどのような行動が重要であるか分析をし、次につなげること。 	4.1
79GHz帯等を用いた移動通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H24-H27	<ul style="list-style-type: none"> ・79GHz帯高分解能レーダーの周波数一次分配に向けた標準化活動や、干渉検討レポートの寄書化は高く評価できる。 ・WRC-15議題1.18において、79GHz帯高分解能レーダへの周波数一次分配が議論されることから、分配実現に向けて大いに努力していただきたい。 ・ITSの自動運転に関しては、諸外国の進展が近年目立っているが、協調型ITSで通信を介するシステムの標準化にはリーダーシップを発揮してほしい。 	4.1
406MHz帯を利用した次世代衛星のビーコン通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H26-H30	<ul style="list-style-type: none"> ・MEOSARシステムへの移行に関する意見交換並びにCospas-Sarsat合同委員会等への参加及び対処方針の検討等が実施されており、当初の計画どおりの成果が得られていると判断する。 ・我が国提案のリターンリンクフォーマットによるビーコン制御技術について、他国からもよい提案があれば、国際的視点で、より良い案へとする調整に努めることが望まれる。 ・誤発射を確認するプロトコルと一緒に提案書や報告書に技術が記載されていないと世界で受け入れられない技術になる可能性がある。 	3.9
次世代GMDSS(全世界的な海上遭難・安全システム)の要素技術の国際標準化	H24-H28	<ul style="list-style-type: none"> ・GMDSSの何十年に一度の技術的な見直しであり、非常に影響の大きい重要な検討である。今後は、陸上でのPLBの活用も俎上にあがるため、先進的なシステムとして十分将来を見据えた検討を実施していくことが望まれる。 ・海上の安全のため、次世代GMDSSの国際標準化は必要。アジアとの連携をとって進めること。 ・将来のGMDSSの周波数分配に向けて各国との連携を深め、将来の議題として確定するよう、各国との意思疎通を図っていただきたい。 	4.0
ミリ波帯を用いた高速移動体の大容量無線通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H25-H27	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の開発したミリ波帯(40GHz帯)を用いた高速移動体向けの大容量無線通信技術について、ITU-Rでの国際標準化を目指して今年度は陸上分野を重点的に取り組み、ワーキンググループをリードして国際標準化を効果的に進めていると判断する。 ・成果としてITU-Rへの新報告書の提案及び各国からの継続審議の承認が得られており、各項目について計画目標通り進捗したと判断する。 ・高速鉄道をもつ数少ない国として、高速鉄道での優先権をとることが大切であるが、各国の様子もよく把握して決めていく必要がある。 	4.0

<p>固定無線アクセス技術等の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務</p>	<p>H25-H27</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイルネットワークのバックホールにおける固定無線システムの役割を正確に見積もるためには光有線系との比較が必要であろう。 ・伝搬特性の解明とデータ提供で終わるのではなく、それがどのように固定無線アクセスや移動通信システムのシステム設計、無線リンク設計に反映できるかを行ったSG5に対する提案がセットが必要である。もっと活動戦略を考えて頂きたい。 ・将来の国際市場での競争力確保のシナリオを示して欲しい。 	<p>3.8</p>
<p>屋内環境における電波雑音特性等の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務</p>	<p>H25-H27</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ITU-Rの電波雑音データバンクへの実測データ入力がどのように進展しているのか明確にしてほしい。 ・CISPRでの活動については、妨害基準の策定のみでなく測定器の実現にも関係するため、各国の意向や動向の把握に努めていただきたい。 ・DC-DCコンバータの周波数が今後大きく上げるとしている。環境の評価が適切に行えるように対応すべきと考える。 	<p>3.9</p>
<p>戦略的な国際標準化に向けた先進技術の動向把握のための国際機関等との連絡調整事務</p>	<p>H26-H27</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の実施計画で予定されていた項目は凡そすべて達成されていると認められる。 ・国際標準化をリードするには、技術的先導性も重要であるが、実際の運用に供しているシステムの技術基準や運用制度や実際にユーザの高い評価を受けていることが重要であろう。国内の制度の見直し等についても、標準化を意識した取組みが必要であろう。 ・本年平成27年11月のWRC-15に向けて、しっかりと準備と調整をしていただきたい。 	<p>3.9</p>